

令和3年度 小中一貫教育研究

松戸市立根木内中学校
松戸市立根木内小学校

◎一貫教育を進めるにあたって

「松戸の学びモデル」

視点Ⅰ 学ぶ内容・機会

視点Ⅱ 学ぶ環境・システム

【基本施策】Ⅱー2 子どもたちのためのよりよい教育システムを構築します

＜小中学校児童生徒＞

●特色ある学校づくりを推進します。

「小中一貫教育、幼保小連携の推進、中高一貫教育の研究」

視点Ⅲ 学びの支援

「松戸の学びモデル」の視点の一つである「学ぶ環境・システム作り」のなかに、子どもたちのためのよりよい教育システムの構築が掲げられています。根木内中学校、根木内小学校は同じ通学区域になっており、児童生徒・保護者・地域が全く同じ地区であることが大きな特徴となっています。その中で、教育だけが小学校と中学校に分かれています。

そこで、小学校、中学校が連携し9年間の教育課程（教育システム）を作り上げることで学校・児童生徒・保護者・地域が9年間を通して同じ環境の中で共に成長していける環境を整えていくことで、根木内の地域がつながり、「教育はみんなで」をこの根木内地区で実現できるものと考えます。

＜研究が生み出す効果＞

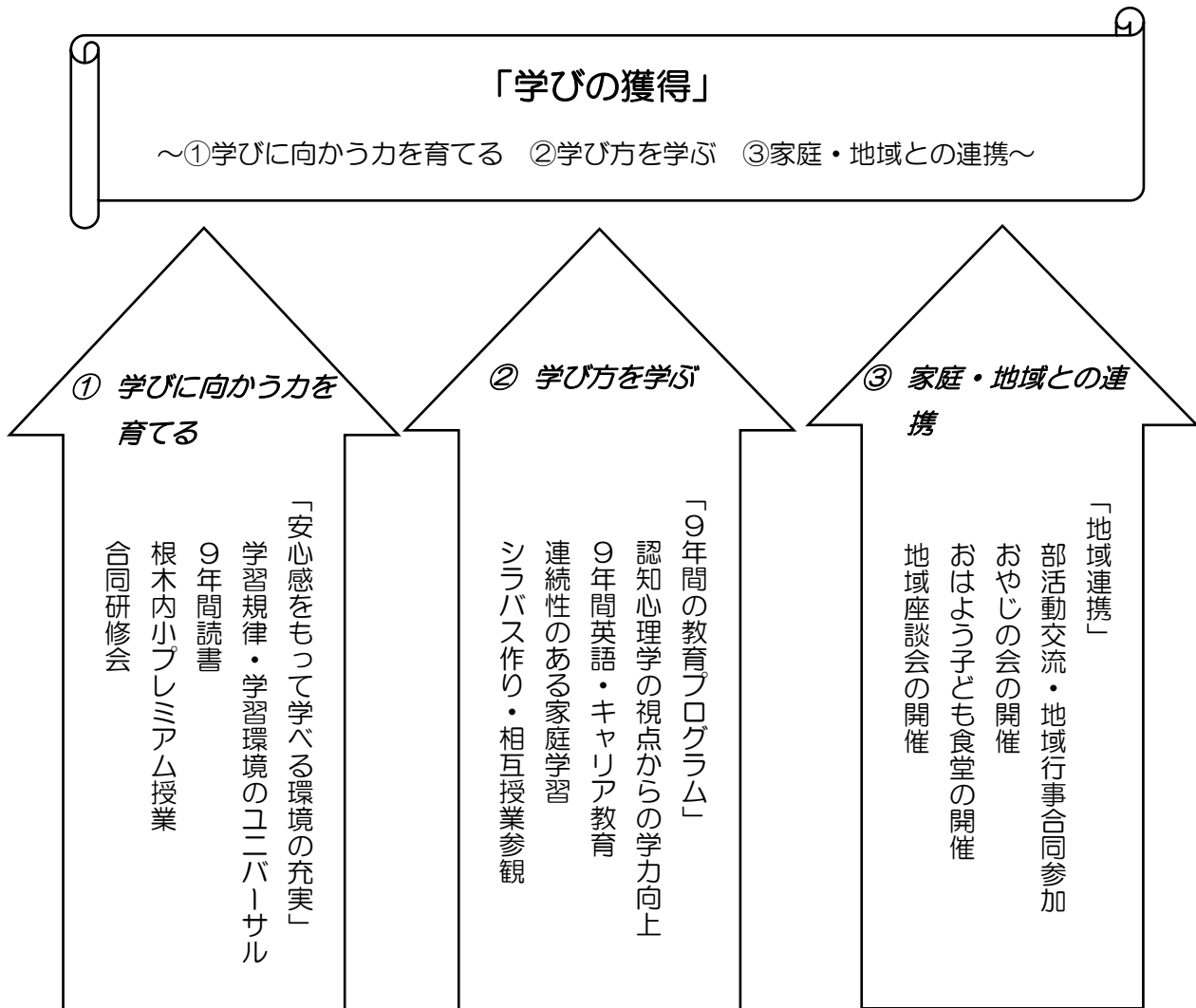
- ① 小学校と中学校がつながることで、中1ギャップを小さくすることができる。
- ② 9年間の連続性のある学びのシステムが作り出せる。
- ③ 教職員の交流・連携により児童理解が深まる。
- ④ 児童生徒の部活動交流・地域行事などの異年齢交流により、心身の発達が期待できる。
- ⑤ 保護者・地域との連携を活性化することで、家庭や地域の教育力が高まる。

1 目指す児童・生徒像

根木内中学校	根木内小学校
≪学校教育目標≫ 確かな知性・たくましい心とからだ	≪学校教育目標≫ 目を輝かせて進んで取り組み、粘り強く頑張る子の育成
<目指す生徒像> ・自ら学び、真剣に考える生徒 (学びの獲得) ・友を思いやり、互いの個性を認め合うことのできる生徒 ・正しい判断力を持ち、実践できる生徒 ・できる根木中生 「あいさつ、時間、整理整頓」	<目指す生徒像> ・自分を理解し、好奇心を持ち、意欲的に学ぶ子 ・思いやりの気持ちを持ち、友達を理解できる子 ・健康な心と体について考え、主体的に行動する児童

2 根木内地区の目指す児童・生徒像

<目指す生徒像>



3 本年度の取り組み

① 「学びに向かう力を育てる」

- ・合同研修会を夏に開催し、小学校の環境を参考に、中学校でユニバーサルデザインを取り入れた環境作りを行った。
- ・学習規律の一つとして、学習問題の提示を中学校でも取り組んだ。
- ・根木内小プレミアム授業については、まん延防止重点措置の延長のため中止
- ・9年間読書に向けて、中学校で読書活動を定着させた。

② 「学び方を学ぶ」

- ・認知心理学（認知主義的学習観）に基づいた、説明活動・テスト直しを小中で取り組んだ。
- ・ジョリーフォニックスを取り入れた英語教育を小1～小6まで広げた。
- ・小中で、家庭学習の定着に取り組んだ。
- ・相互授業参観を年に1回行い、全教職員が相互に授業を参観。情報交換を行った。

③ 「家庭・地域との連携」

- ・「おやじの会」との連携によるキャリア教育を小学校で実施。
- ・川島隆太先生の講演会に小中で参加。
- ・SSWの週1日配置。生徒指導部会への参加。
- ・地区社協、町会との連携による「子ども食堂」を小学校で開催。
- ・地域、小学校、中学校との座談会は、まん延防止重点措置の延長により中止。

4 来年度の取り組み

① 「学びに向かう力を育てる」

- ・学習規律・学習環境のコミュニティーワイドなユニバーサルデザインに取り組む。
- ・9年間の積み重ねがわかる読書記録の仕方を検討。
- ・根木内小プレミアム授業を中学校の教室を利用して開催。
- ・合同研修会を夏に開催。

② 「学び方を学ぶ」

- ・認知心理学（認知主義的学習観）に基づいた、説明活動・テスト直しの継続
- ・ジョリーフォニックスを小1～中1まで広げる。
- ・9年間の連続性のある家庭学習の定着を図る。
- ・小中9年間を通したシラバス作りを行う。
- ・相互授業参観を年に1回行い、情報交換をする。

③ 「地域との連携」

- ・「おやじの会」との連携によるキャリア教育を小学校で実施、中学校での活用を模索。
- ・地区社協、町会との連携による「子ども食堂」に小中で参加。
- ・中学校での自閉症・情緒障害特別支援学級の新設（支援の連携）
- ・SSWの週1日配置。生徒指導部会への参加に加え、定期的な情報交換会の実施
- ・地域、小学校、中学校との座談会の開催。
- ・部活動交流、地域行事に合同参加